特集

ごみ減量の現状と古紙の定期回収

この写真は、邑久・牛窓地域の可燃ごみを焼却処理しているクリーンセンターかもめ（牛窓町牛窓）の外観を撮影したものです。

市では、ごみの減量を進めるとともに、稼働時間の延長などを行い、平成25年度からは長船地域の可燃ごみも同施設で焼却処理をする計画です。

このページでは、ごみ減量の現状と11月から始まる古紙の定期回収についてお知らせします。

瀬戸内市は、きれいな海、美しい山並みと田園風景に育まれた自然豊かなまちです。

今を生きるわたしたちに求められることは、自然や風景を守り、次代を担う人たちに美しいまちを引き継いでいくことではないでしょうか。

市では、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向け、全市的に「ごみ減量化」を推進しています。一人一人ができることは小さいかもしれませんが、市民4万人の力が一つになれば、大きな可能性を生み出します。皆さんのご協力をよろしくお願いします。

瀬戸内市のごみ処理の現状

現在、邑久・牛窓地域の可燃ごみ（焼却処理ができるごみ）は、クリーンセンターかもめ（牛窓町牛窓）で焼却処理を行っています。

長船地域の可燃ごみは、合併以前から、岡山市との協定により東部クリーンセンター（岡山市東区西大寺新地）で焼却処理を行っています。

市内でのごみ処理を目指して

市では、廃棄物の処理は、できるだけ排出地域に近いところで行うという自区内処理の原則に基づき、平成25年度から長船地域で発生するごみについてもクリーンセンターかもめで焼却処理を行う予定です。

クリーンセンターかもめは、平成9年に建設されたストーカ方式（格子状に組んだ金属棒の上にごみを置き、下から空気を送り込み乾燥、燃焼を行う方式）のごみ焼却施設です。

一日あたり、15トンの可燃ごみを処理できる炉が2基あり、毎日8時間運転しています。

現在の計画では、長船地域から発生する年間約2、900トンの可燃ごみを処理するために、市全域でごみ減量を進め、施設の運転時間の延長などを行う予定です。

この計画に基づき、環境影響調査や炉壁の改修などを行い、平成25年度から運転時間の延長ができるよう整備を進めています。

今後、市内での焼却処理を永続的に行っていくためにも、処理するごみの量を減らし、クリーンセンターかもめを大切に使っていかなければなりません。

また、使わなくなった物を再利用や再生利用することで、自然環境への負荷を軽減することができます。焼却時に発生する二酸化炭素も削減でき、地球温暖化防止にもつながります。

さらに、ごみの減量は、処理費用の軽減につながります。市のごみ処理にかかる費用は、年間約4億3千万円（平成22年度）で、これは、市民1人当たりに換算すると年間で約11、000円となっています。

ごみ減量の折り返し地点

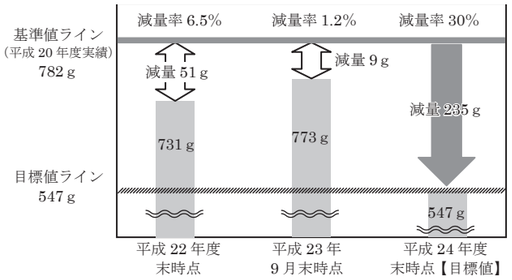
平成22年4月にスタートしたごみ減量の取り組み「瀬戸内市ごみ30％減量作戦（ごみダイエット瀬戸内）」が、9月末日で折り返し地点を迎えました。

この取り組みは、平成20年度の市民1人1日あたりのごみ排出量782グラムを基準値として、平成24年度末の目標値を547グラムに設定し、平成22～24年度の3年間で市民1人1日あたりのごみ排出量を30％減量することが目標です。

市では、生ごみ処理機購入費補助金や資源ごみ回収推進団体報奨金などの制度を拡充しています。また、毎月発行している「ごみダイエット通信」や、自治会などを対象とした説明会でごみの減量に関する取り組みや情報についてお伝えしています。

しかし、現実は厳しい中間結果となっています。

市民１人１日あたりのごみ排出量の推移と目標



本年度は下半期で巻き返しを

目標であるごみ30％減量の進捗状況は、年度単位での数値比較となります。

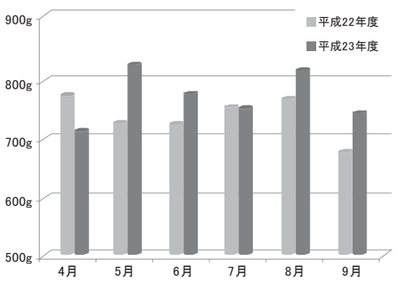
1年目の平成22年度の結果は減量率6・5％でした。初年度としてはまずまずのスタートが切れたものの、目標値までには大きな開きがあり、厳しい状況との認識で2年目に突入しました。

2年目となる本年度は、4月こそ対基準値で9・1％減量と上々のスタートを切ったものの、5月以降は逆戻り傾向にあり、9月末時点の減量率は1・2％となっており、緊急事態と言えます。

また、本年度上半期を振り返ってみると、例年にない変則的な増減をしていることが分かりますが、これは、3月に発生した東日本大震災の影響を受けているものと思われます。

4月の大幅な減量は、震災直後ということもあり、買い控えなどによる消費の低迷によるものと考えられます。そして、5～6月の急激な増加は、自粛ムードによる旅行の中止などにより、ゴールデンウィーク中も市内に留まる市民が多く、結果として市内で発生するごみ量が例年と比較して増加したものと考えられます。

また、ごみ30％減量作戦自体も2年目に入り、各家庭で取り入れやすい方法はすでに実践できていると考えられます。そのため、中だるみの時期を迎えていることも否定できません。

上半期の結果は思わしくありませんでしたが、前向きに考えると本年度はまだ半年も残っています。気持ちを切り替えて、下半期で巻き返しをはかりましょう。

市民１人１日あたりの月別ごみ排出量の推移